

徳島県サービス管理責任者等基礎研修
事例の概要

この事例の登場人物、施設名等の名称はすべて仮称です

徳島 太郎さん

記入者 記入者 支援センターひまわり 相談支援専門員 鳴門 ひろしさん

事例タイトル	父親と弟との暮らしが困難になり、グループホームと就 B を利用しながら地域で生活することを希望している事例
年齢・性別・ 家族構成・家族 状況・現在の居 住歴	【ご本人】 徳島 太郎（とくしま たろう）22歳・男性 A 市で生まれて以来家族と生活してきた。 【家族構成】 現在の実家は父親と弟の3人暮らし 【実父】 徳島 一平（とくしま いっぺい）58歳 無職 もともとは大工。以前はとても面倒見が良かった。現在は交通事故で右半身に麻痺が残り無職となっている。何とか自分のことはこなせるが、子どもたちの世話をすることは身体的にも経済的にも困難になっている。 太郎さんの施設入所を考えていたが、太郎さんの「自立したい」という気持ちを聞いて、福祉サービスを利用して自立してほしいと思っている。 【実母】 ご本人が小学校1年生の時他界。 【実弟】 徳島 次郎（とくしま じろう）18歳 高校3年生 現在普通高校に通学。高校卒業後は就職する予定だが、兄の面倒までは見られないとのこと。
手帳 障害支援区分	療育手帳 障害の程度 B2 軽度の知的障害 障害支援区分：区分3
経済状況	家族：生活保護受給により、生活 本人：障害基礎年金を申請中 生活保護受給
生育歴・学齢期 の状況等	【誕生～幼少期】 ・A市で2人兄弟の長男として出生 ・初語や歩行は少し遅かったが、特に保健師からの指摘事項はなかった。 ・保育園では、お絵描きや制作活動は楽しんで参加できていたが、絵本の読み聞かせは時折、立ち歩くことがあった 【学齢期（小学校）】 ・小学校の1～2年生の時は普通学級に通っていたが、授業中落ち着きが無く、席を立って教室内を歩き回り、突然怒りだし友達に手をあげて殴って

	しまうことがあった。尚、小学校1年生の時に、母親が他界。以後、父親と弟の3人暮らしとなった。 ・小学校3年生から情緒支援学級に移る。 ・小学校6年生の秋に、他の生徒との学力の差、学習環境に馴染めないこと等から、担任からは、中学は特別支援学校への進学を勧められた。その際、児童相談所での療育の判定を受け、軽度の知的障害の判定を受けた。 【学齢期（中学部）】 ・中学はA市内にある特別支援学校に進学。中学校での生活は、太鼓部に所属し部活動では楽しく過ごしていた。 ・太鼓部の顧問は、太郎さんのできるところは積極的にほめて、苦手なところは根気よく教えてくれた。 ・部活動以外では、昆虫が大好きで、図鑑を見たりしている時は周りの声が聞こえないほど集中していた。同じクラスに昆虫好きの友達がいた。 ・学校の科目では、父親が大工だったこともあり、太郎さんも木工に興味をもって犬小屋をつくった。 ・好きなこと（木工や昆虫図鑑を見ること）は集中して取り組むことができるが、興味が無いと席に座っていることができない状況があった。 【学齢期（高等部）】 ・高等部進学後も高等部の太鼓部に所属し、地域の演奏会などに参加。 ・友達も数人いたが、自分から積極的に作るタイプではなかった。どちらかというと受け身的な性格であり、話かけられるのを待つ方だった。 ・困りごとがあっても相談できない。面倒見の良い人がいると素直になって長続きする傾向があった。 【特別支援学校高等部の元担任の主観】 ①同じような内容のことについても、理解できているときとそうでないときの差が大きい。特に集団の場面では、話したことが届かないことは多かった。 ②自分でできないときになかなかヘルプコールが出せない。 ③ 教えられたことを忠実にやろうとするが、思った通りにならないと、何か理由をつけてやっていることを止めてしまうことがあった。 ④人に認められたい気持ちはとても強く持っており、虚勢を張ってしまうところが度々見られた。 ⑤なかなか伝えたことが身につかないときに、繰り返していねいに声をかけていくと腹を立ててしまうことがあった。
--	--

	【支援目標を達成していく上で効果が認められたこと】 ①作業していく内容については、他の生徒がいない教室で、担任と一対一で見本を示しながら教示していくと、5～6 工程の内容でも対応できることは多かった。 ②やるべきことについての内容とその手順は、料理のレシピのように、写真を添えて文章で示すと、自分で確認しながら取り組めることが多くなった。 【卒業後】 ・放課後等デイサービスを終了 ・特別支援学校卒業後は、製造部品を作る工場に就職
相談経過の要約	・特別支援学校の高等部を卒業し、製造部品を作る工場に就職。面倒見の良い上司がいて太郎さんも素直に対応した。上司がわかるまで丁寧に教えてくれて、ときに叱咤激励してくれたことで、安心して働いていた。しかし、1 年後に上司が変わり、その上司が他の職員の対応に追われて、太郎さんにあまり気を配らなくなった。それから半年後に、太郎さんは「上司からの注意が怖い」「仕事が集中して取り組めない」などの不安を訴え、工場に通えなくなり、そのまま退職してしまった。 ・退職後は「誰とも会いたくない」と話して、求職活動もなかなかできず自宅でのひきこもり状態の生活になっていた。 ・退職して半年後、大工をしていた父親が通勤途中に交通事故にあい大けがをした。父親も右半身に麻痺が残り、仕事ができなくなった。最初のころは貯蓄で何とか生活していたが、すぐに生活保護となった。 ・それまで父親が家事などを行っていたので、父親が家事を十分にできなくなったため、家庭内は乱雑な状態となり、食事も偏りが見られた。 ・父親から「太郎の面倒をみていくことができない。何とか施設に入れてもらえないか」と市役所に相談があり、太郎さんも「お父さんと離れて、自分で生活できるようになりたい」と希望し、相談支援センターひまわりの利用を開始した。 ・太郎さんは、相談支援センターひまわりで相談を始めて、見学等も行いう中「相談しながらやっていきたい」「今は朝も起きられない」「掃除や洗濯、調理もできない」。でも、「いずれ自分のことは自分でできるようになりたい」ので「一人暮らしに向けた準備をしたい」し「すぐに働く自信はないのでそのために力をつけたい」とグループホームを利用しながら、就労継続支援B型事業所に通所することを希望した。

相談支援専門員 からの特記事項	・こちらから話かけるとボソボソと返答するが、話をするのは好きな様子。太郎さんからの質問はほとんどない。 ・太郎さんの見た目は年齢相応の好青年である。ただ生活に困窮しているので、服装には少し汚れが目立っていた。 ・相手の話を「はい、はい」と返事をするので、分かっているように見えるが、なかなかすぐには理解できない様子。 ・自分で自立した生活というイメージがまだ持てていないが、周りの人の協力が得られれば、十分地域で生活できると、相談支援の担当者は考えている。
--------------------	--

※太郎さんが特別支援学校中等部に入学する際に放課後等デイサービスで作成したものです

利用児氏名：徳島 太郎

個別支援計画書

作成年月日：○年 ○月 ○日

利用児及び家族の生活に対する意向	・友達と楽しく過ごしたい。 ・昆虫のことをもっと知りたい。観察したい。 ・僕のことをわかってほしい。(本人) ・新しい環境で自分らしく過ごしてほしい。 ・自分の気持ちをうまく伝えられるようになってほしい。(保護者)
------------------	--

総合的な支援の方針	太郎さんは楽しく友達と過ごしたり、タイムリーに自分の思いを伝えて分かってほしいという気持ちをもっており、保護者もそうした太郎さんの姿に近づいていけることを願っています。これから思春期を迎えようとしている太郎さんですが、中学は支援学校に進学することになり、過ごす環境が大きく変わることで、不安や戸惑いを感じる場面も少なからずありそうです。事業所としては、太郎さんのペースで、太郎さんらしく楽しく学校生活が送れるよう関係機関と連携を図り、太郎さんにご家族をサポートしていきます。また、太郎さんが安心して思いを伝えたり、話ができる環境作りや意思表示の為のフォローも引き続き行っていきます。
-----------	---

長期目標 (内容・期間等)	他者に意思表示できることで受けとめてもらえた安心感や満足感を感じられる経験の幅が広がる	支援の標準的な提供時間等 (曜日・頻度・時間)
短期目標 (内容・期間等)	新しい環境に慣れ、事業所でも安心して過ごせる	・月～金曜日(週5日) 学 校 日： 14:00～17:00(3時間) 延長時間 17:00～18:00 学校休業日： 10:00～15:00(5時間) 延長時間 8:30～10:00 15:00～18:00

○支援目標及び具体的な支援内容等

項目	支援目標 (具体的な到達目標)	支援内容		達成 時期	担当者 提供機関	留意事項 (本人の役割を含む)	優先 順位
本人 支援	場面に合った行動の調整ができる	・リラックスタイムや運動遊びで心や体がリラックスできたりエネルギーを発散する爽快感を知る。 ・必要に応じて気持ちや体の感覚について見える化したものを使い、自己調整できるようにする。	運動・感覚 認知・行動	6か 月後	作業療法士 保育士	・自分でうまく気持ちや行動の調整ができる方法を太郎さんと一緒に考えていく。	3
本人 支援	興味のあることや好きな活動にじっくり集中できる	・太郎さんの興味のあるものを様々な道具や素材を使って作ってみる。 ・作成手順や素材の集め方を調べたり担当者と相談して進める。	認知・行動	6か 月後	心理担当職員 保育士	・環境や一緒に過ごす友達が大きく変化することをふまえて、これまで続けてきた好きな活動に自分らしく参加できるようにしていく。	2

本人支援	事業所で安心して楽しく過ごせる	・学校でのことや感じたことを話せる担当者とりラックスして話せる空間をもうける。 ・休息时间や単独活動も取り入れながら、友達との運動遊びやゲームを楽しむ。	健康・生活 人間関係・ 社会性	6か月後	保育士 児童指導員 保護者	・思春期や第二性徴を迎えることもふまえて、太郎さんにとって安心して話や相談ができる環境を作る。	1
本人支援	自分の思いや考えを他者に表現できる場面が広がる	・言葉で伝えにくい時は、タブレットや手紙を使ってみる。大人に相談してみる。	言語・コミュニケーション	6か月後	心理担当職員 保育士	・太郎さんの表現しやすい伝達方法を尊重しつつ、うまく伝わるコツを教示していく。	2
本人支援	状況に応じたふるまいができる場面が広がる	・ペア及び小集団活動で友達と一緒に決めたり作戦会議をする場を通じて意思表示する経験を重ねる。 ・自分と他者の関係(役割)や気持ちをイラスト等で見える化したものを活用する。	人間関係・ 社会性	6か月後	心理担当職員 保育士	・時には太郎さんの“言いたくない”“したくない”の気持ちも尊重しながら進めていく。	3
家族支援	新しい環境での太郎さんについて共有していく	・家庭での様子や気になっていることを送迎時や連絡帳で、また、面談の機会にお伝えください。 事業所での様子やこちらからの提案・助言についても上記機会を通じてその都度させていただきます。		6か月後	児童発達支援 管理責任者 支援担当者 保護者	・子育てサポート加算：事業所での様子を見ていただき、フィードバックや助言を行う。（2か月に1回を想定）	
移行支援	小学校から支援学校への引き継ぎとして情報共有を図る	・太郎さんの強みや必要なサポートについて共有がはかれるよう、事業所としての資料を作成したり、保護者が作成する引継ぎ資料のフォローをします。 ・必要に応じて支援学校入学前に保護者と共に学校訪問して情報共有をします。		6か月後	児童発達支援 管理責任者 支援担当者 ○小学校担任 □支援学校学年主任 保護者	・保護者の意向を確認しながら連携を図る点に留意する。	
地域支援・ 地域連携	関係機関（者）で太郎さんの新生活における支援の方針を共有する	・連携会議を定期的に行い、情報収集、役割分担について協議する。 ・関係機関からの情報に基づき、具体的な支援の提案やポイントについての助言を行う。		6か月後	児童発達支援 管理責任者 支援担当者 □支援学校担任	・関係機関連携加算（Ⅱ）：連携の為の会議の開催を予定。（3か月に1回を想定）	

提供する支援内容について、本計画書に基づき説明しました。

児童発達支援管理責任者氏名：〇〇 〇〇

本計画書に基づき支援の説明を受け、内容に同意しました。

△年 △月 △日 保護者署名

アセスメント表

記録：相談支援センターひまわり

相談支援専門員：鳴門 ひろし

相談日時	令和 6 年 6 月 5 日 13 時～15 時
氏名等	徳島 太郎氏、22 歳 男性知的障害（軽度）障害支援区分 3（月 1 精神科受診）
望んでいる暮らし	【全体】 「父親には世話になったので迷惑をかけたくない」 「困りごとは相談したい」 「3 年後には普通に仕事をして立派な人になりたい」 【生活面】 「自分のことは自分でできるようになりたい」 「将来は一人で暮らしたい」が「今は朝もなかなか起きられない」し 「掃除や洗濯、調理もできない」 「一緒に遊ぶ友達が欲しい、昆虫の話ができる友達ができたら最高」 【就労面】 「3 年後ぐらいにはまた働きたい」 「今は働くことの自信はないので力をつけたい」 「1 人でコツコツと集中できる作業が好き」 「働くときには優しい上司がいるところが良い」
心身の状況	身長 175 cm 体重 80 キロ特に問題ない。太郎さんは最近肥満体形になってきているのを気にしている。
精神面の状況	突然怒り出したりすることは、以前に比べれば少なくなってきた。ただ自分のペースを乱されたり、急かされたりするとイライラする感じが見られる。 見た目は大人しそう。高校時代の担任の先生は「普段は、穏やかに過ごしていた」「集中している時は、周りの声も耳に入らない」と言われていた。父親を尊敬していて世話になったと思っている。
生活の自立度	朝起きるのが苦手で生活リズムがなかなか安定していない。ADLは自立している。 家事は手先が器用なので練習すればできるようになるのではないかな。やり方や手順について確認する必要がある。
気持ちの自立度	家を離れた暮らしは全く経験したことがないので、始めは戸惑うこともあると思われる。また、自分の思い通りにならないと、他の方とトラブルになる可能性もあるので、イライラしそうなときには早めに職員に伝えられるとよい。
服薬状況	夜、寝る前の処方のみ。自分で薬の管理ができるように練習している。

経済状況	【収入面】 生活保護 【支出面】 グループホームの費用 家賃 30,000 円（家賃補助 10,000 円） 食費 20,000 円 高熱水費 15,000 円日用品費 3,000 円 生活費（おこづかい） 20,000 円 金銭管理は、仕訳を手伝えばその金額の中で使用することは可能。ただし欲しい物（菓子・ケーキなど）買いたい気持ちが高まると、浪費してしまうことがある。
趣味	昆虫の図鑑を見ること。手先が器用なので木工が好き。菓子・ケーキ等の買い物など
キーパーソン	父親。交通事故で右半身に麻痺があり自分のことで精一杯な様子。
家族	父方母方の祖父母について 父方の祖母は県外（遠方）にいるが、母方の祖父母は他界している。 両親と暮らしていたころは、年 1 回は家族で父方祖父母に会いに行っていた。
就労	手先が器用で興味をもつと集中できる。また、面倒見がいい人の話は素直に聞くことができる。しかし、以前の工場での仕事の経験から「人に会うのが怖い」「また注意されるのが心配」と不安感を述べる。「1 人でコツコツと集中できる作業が好き。」「働くときには優しい上司がいるところが良い」「3 年後には普通に仕事をして立派な人になりたい」といずれしっかり働きたいという意欲はある。移動手段は、徒歩。公共交通機関は、これまでほとんど利用したことがないが、練習しだいでは利用できそうである。

02 アセスメントシート

氏名 徳島 太郎

記入 相談支援専門員 鳴門 ひろし

項目		介助が いるか	程度	項目		介助が いるか	程度	
日常生活面	起居動作	起き上がり	☐ 有	衛生保持	手洗い	☐ 有		
		寝返り	☐ 有		爪切り	☐ 有		
	姿勢保持	座位	☐ 有		耳掃除	☐ 有		
		立位	☐ 有		月経	☐ 有		
	移動	屋内	☐ 有	行排為泄	排尿	☐ 有		
		屋外（徒歩）	☐ 有	排便	☐ 有			
	衣類着脱	着脱行為	☐ 有	食事全般	飲食行為	☐ 有		
		服装の選択	☐ 有		食事状況	☐ 有		
	整容行為		歯磨き	☐ 有	食事の後片付け	☐ 有		
			洗顔	☐ 有	調理全般	調理	☒ 有	やったことがないので支援が必要
			整髪	☐ 有	安全確認	☒ 有	やったことがないので支援が必要	
			ひげ剃り	☐ 有	入浴全般	入浴の準備と片付け	☐ 有	
			化粧	☐ 有	入浴	☐ 有		
	家事全般		洗濯	☒ 有	洗濯物干し	☒ 有	やったことがないので支援が必要	
			掃除	☒ 有	片づけ	☒ 有	片づけなどは苦手、声掛けが必要	
			衣類整理	☒ 有	所持品整理	☒ 有	片づけなどは苦手、声掛けが必要	
			ペットメイク	☐ 有				
特記事項 父親がある程度身の回りのこと（調理、洗濯、掃除など）はやってくれていた。太郎さんは、積極的に身だしなみを整えたり、片づけたりすることも苦手だが、声掛けがあればなんとか自分で行える。物が多く、部屋に服や小物類が溜まってしまふ。日常生活でやらなければならないことの優先順位がつけられない。家事をやった経験がないが、援助があればできるようになると予測できる（今までの生活の様子から、父親が予測）。朝起きるのが苦手なので、就労継続支援B型の事業所に通う時には遅刻が頻回になることが心配される。								
コミュニケーション	困ったときに相談しているところ 生活上の支援機関、支援者など 相談支援センター「ひまわり」・・・サービス等利用計画作成 相談支援 就労センター「スマイル」・・・利用予定の就労継続支援B型 グループホーム「ピアハウス」・・・利用予定のグループホーム 西村病院（内科・精神科）・・・外来通院先 意思の表現方法 言葉でのコミュニケーションが十分できる。最初の上司が仕事を教えていた時は、時間がかかるが分かるまで教えてくれたので、本人も安心して仕事ができている。手順が分かれば、呑み込みが早い。ただ自分から積極的に質問するタイプではなく、困ったことや心配なことがあっても自ら相談することができなかった。周りの人は分かっていると思って仕事をすすめてしまうので、本人は分からずに少しパニックになってしまうことがあった。							
社会参加・移動	好きなこと 昆虫の図鑑を見ること。手先が器用なので木工が好き。買い物やゲームなど 嫌いなこと 怖そうな人・すぐに怒りそうな人 移動の方法 徒歩 これまで公共交通機関を利用する機会はなかったが、練習すれば利用できそう							
家庭生活	グループホームで生活をする予定 家庭での主な介護者 父親 介護者の状況 もともとは大工。交通事故で右半身に麻痺が残り、自分のことをこなすことで精一杯な状況。							
経済状況	主な生活財源 生活保護受給中。 預貯金 0円 就労による収入 0円/月 ☒ 基礎年金申請中 ☐ 障害者特別手当 ☐ その他 金銭管理は、仕訳を手伝えればその金額の中で使用することは可能。ただし欲しい物（菓子・ケーキなど）買いたい気持ちが高まると、浪費してしまうことがある。							

	項目	介助が いるか	程度	特記事項		
行動面	行動面での障害1	こたわり行動	☒ 有	自分の手順があり、変更されるとパニックになる	特別支援学校卒業後は、製造部品を作る工場に就職していた。面倒見の良い上司の元では、素直に支持を受け入れ、元上司も根気よく教えてくれていたらしく、安心して働いていた。上司が変わり、あまり面倒見てもらえなくなってからは、「上司からの注意が怖い」「仕事が集中して取り組めない」など心配を訴え退職した。 本人は、周りの人からは仕事のことなど分かっていると思われるタイプで、仕事が断れない。仕事で困っていても、自分から相談したりできず、どんどん抱え込んでしまい不安をたくさん抱えてしまう。 2年ほど自宅で引きこもり状態。父親が交通事故にあい、右半身に麻痺がのこり、本人の面倒が見られなくなった。 声掛けがあれば、家のことを少し手伝ったが、どのように進めれば良いのか分からなくなってしまうことが度々あった。調理、洗濯、掃除の仕方など根気よく教えてくれる人がいなかったなので、経験が積み重なったのだと思う。 仕事についても、以前の会社で人間関係がこじれてしまって離職したので、働きながら何か困ったときには相談できること、サポートを受けながら就労できるB型事業所の利用を希望した。 見守りの環境が整えば、力を発揮することは可能だと感じる。	
		徘徊	☐ 有			
		無断外出 無断外泊	☐ 有			
		錯覚・幻視・幻聴	☐ 有			
		被害妄想	☒ 有	近所の人たちからハカにされていると思っている。		
		自殺願望・企画	☐ 有			
		不潔行為	☒ 有	声掛けがあれば身だしなみを整えるが、放っておかれると着替えたりできない。		
		異食行為	☐ 有			
		収集癖	☐ 有			
		物忘れ	☐ 有			
	行動面での障害2	反社会的行為 (盗癖、虚言など)	☐ 有			
		自傷行為	☐ 有			
		他者に対する 粗暴行為	☐ 有			
		器物に対する 粗暴行為	☐ 有			
		奇声や騒がしさ	☐ 有			
		パニック	☒ 有	物事の進め方が分からないと起きる。		
		多動・行動の停止	☐ 有			
		思考障害	☐ 有			
		感情・ 障害 害思	感情不安定	☒ 有		困ってしまうと感情も不安定になる。
			過大・過小評価	☐ 有		

《その他》

主治医からは、薬は軽いものなので、生活が安定し、精神的に安定すればいずれ必要がなくなるかもしれない。本人が困っている時に、周りが気づける関係性ができると、これ以上の薬の必要性はないと言う。そのためには生活の場でのサポート体制は欠かせない。SOSを出す力をつけられると思っている。

